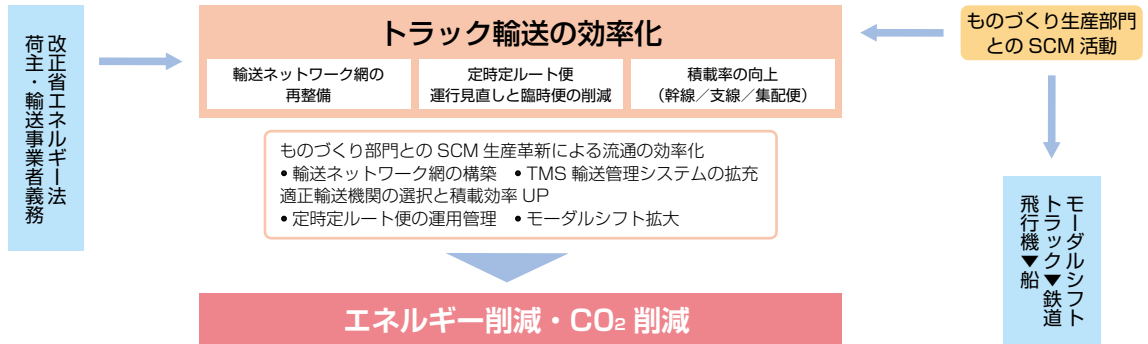


環境活動内容

温暖化防止活動

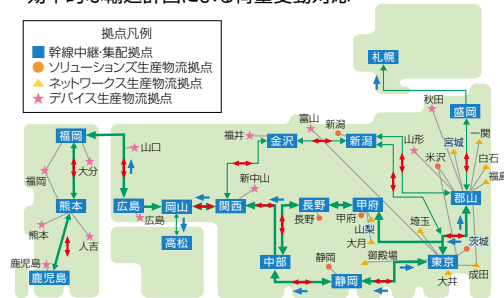
温暖化防止の抑制として改正省エネルギー法で運輸部門と荷主のエネルギー削減が義務付けられました。2006年度はエネルギー削減のためのデータ把握の体制を整備し一定以上の荷主に対してデータ提供する仕組みを構築しました。弊社は、従来から全国の輸送ネットワーク整備と情報システムの充実で輸配送の効率化につなげ輸送トラックの燃料削減によりCO₂排出量の抑制に努めてきました。特に生産メーカーとのSCM生産革新でトラック輸送の臨時便を削減し定時定ルート便化、積載率向上、共同輸送、モーダルシフト推進等で輸配送効率化を図り便数、輸送距離の最適化でCO₂排出の抑制を図っています。

輸送の効率化と温暖化抑制

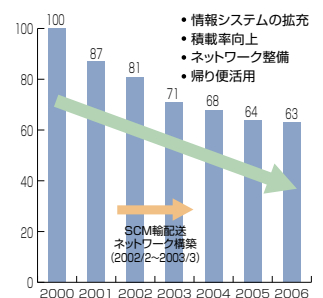


輸配送ネットワーク整備

- TMS(輸配送管理システム)による積載率向上
- 効率的な輸送計画による荷量変動対応



輸送効率化による輸送トラック推移



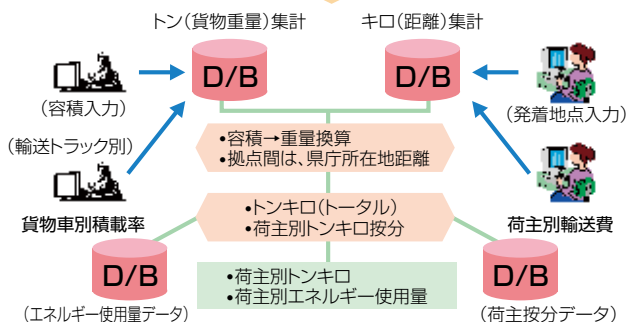
輸送エネルギー使用の把握(改正省エネルギー法対応)

輸送機関別に個々の荷量容積と輸送距離の全体を把握し荷主別の輸送コストで按分を行い荷主別の“トンキロ”を算出します。

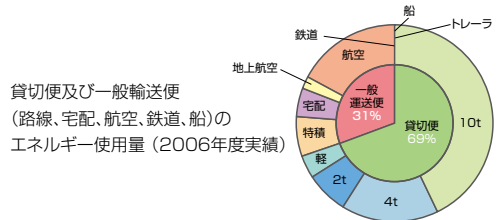
● 貸切便の“トンキロ”の把握の仕組み

算定方法(選択)	NECグループの選択	選択理由
①燃料法 注:事業者が管理できる方法を選択する	×	●協力会社(備前)のデータ把握困難 ●法人(荷主)別の区分が困難
②燃費法 燃料と輸送距離からエネルギー使用量を算定	×	●法人(荷主)別の対応が容易 ●SCM活動で積載率向上を展開中
③改良トンキロ法 積載率と車時の種類、積載別の輸送トンキロからエネルギー使用量を算定	○	

改良トンキロ法を採用



● 全輸送の使用エネルギー



● 荷主別の“トンキロ”

